

平成 29 年度 中央区立月島第一小学校 外部評価報告書
外部評価委員：玉井 達二 清水 好子 増田 光辰 木皿儀 孝子 黒川 悦子 茂田 真吾 報告書作成者：株本 光子
評価時期 平成 30 年 3 月
1 重点目標の評価 重点目標 1「進んで学習に取り組む子どもを育成する」について ○ 校内研究と関連付け、「算数科」に絞って児童に質問したことは、取組の成果や課題を捉えるために適している。 ○ 教職員のほぼ 100%が「児童が学習への興味・関心・意欲を高めて学習に臨んでいる。」「授業の進め方を日々工夫している。」「コミュニケーション力、表現力を高めている」と回答している。教職員は、自己の指導法の工夫と児童の成長について「満足」と自己評価している。意欲的に児童に向き合ったことが分かった。 ○ 児童の 73%が「算数の授業が楽しい」、91%が「授業の内容はよくわかる」と回答し、保護者の 76%が「子どもは、自分の考えや感じたことを書いたり発言したりしている」と回答している。教職員の回答 100%と比べると、数値の違いが大きい。これは何に起因するかを深く分析・考察し、今年度の成果と課題を明らかにする。その際、国や都の学力調査結果、指導要録などのデータを合わせて比較検討する。併せて指導方法の適切さ、組織的に協働して取組んだについても関連付けて分析・考察する。よさや問題点を冷静に整理することによって、今年度の成果と次年度の学校運営の改善策が見えてくる。データと静かに向き合い、学校改善の方法を見出すことがこの学校評価の目的である。 重点目標 2「豊かな心を育む活動を推進する」について ○ この重点目標では、児童に「読書をする習慣」についての設問をしている。「豊かな心を育む活動」として、「読書をする習慣」に絞って設問をした理由を教職員が共有していることが大切である。「こういう理由で、読書の習慣が豊かな心を育むために有益です」と、どの教職員も児童・保護者等に説明できることが、信頼できる学校づくりの大切な要素である。 ○ データ集計後の読み取り、分析・考察、次年度への改善策等は、「重点目標 1」に記述した内容と同様大切に、学校評価を実施する。 ○ 教職員の評価で、AよりBがはるかに多いこと、Cと評価した理由なども、丁寧に読み取ること。 重点目標 3「丈夫な体、健康な生活習慣を形成する活動を推進する」について ○ 児童の設問は、低・中学年等の実態に応じたものであるか十分に吟味する必要がある。 ○ 保護者の設問「オリンピック・パラリンピック教育を推進しているか」に、分からないという回答者 37 名もいたのはなぜかアンケート結果から振り返り、次年度の改善に生かす。 ○ 読み取り方、分析・考察、次年度への改善策については、「重点目標 1」に記述した内容と同様である。 2 今後の改善に向けた意見 ○ 全校で取組んだ 1 年間の成果を大事にし、なぜそれだけ取り組むことができたかなど根拠を明確にし、次年度に発展的に生かすとともに、教職員、保護者、地域の方々と共有する。 ○ 保護者からのアンケートの回収率が今年度の 71%であった。次年度の目標値を決めて取り組む。 3 その他 ○ 学校評価についての目的や実施方法について、年間の実施計画も含め学校全体で確認し、学校運営改善を行う。この事が、声援をいただいている地域の方々に、応えることである。